

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2016.11
No.118



すこやかに 2016-17 日本

2016年度
複十字シール圖案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄附者感謝状贈呈式並びにお茶会

平成28年6月10日リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた個人や団体の方々に、秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。また、記念写真とお茶会が行われ、資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。



結核研究所国際研修生との懇談会

平成28年7月1日秋篠宮邸にて、平成28年度「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)時代における結核制圧コース」の8カ国15名の研修生と御懇談が開かれ、研修生一人一人とお言葉を交わされました。



厚生労働大臣表敬訪問

今年度の複十字シール運動に伴う厚生労働大臣表敬訪問は、9月13日(火)13時より行いました(福島健康局長対応)。

全国結核予防婦人団体連絡協議会は、木下会長・山下事務局長、結核予防会は、工藤理事長・前川事業部長、小林募金推進部長・斉藤募金推進部管理課長、久保田募金推進部推進課長が出席しました。

この表敬訪問は、全国一斉に行われる活動で、婦人会と結核予防会が連携して、本部は大臣を表敬訪問し、支部と地元の婦人会が連携して各都道府県知事を表敬訪問することとなっています。

まず、工藤理事長からは、「国内では、2020年までに結核罹患率を人口10万対10以下にという目標

に向けて取り組んでいきます。また、アジアと世界の結核をなくさなければ日本の結核はなくならないという視野をもって結核対策に取り組んでいきます」と、力強く発言されました。

福島健康局長からは、「結核の低まん延化へ向けて困難なこともあると思いますが、少しずつ進めていきたい。また、多剤耐性菌への取り組みが世界レベルで進んでいます、その中でも結核は大切であると認識しています。普及啓発については、役所の取り組み以上に、婦人会をはじめとする民間の活動が効果的で、今後ご協力いただきたい」と発言がありました。また、2019年にはラグビーのワールドカップ、2020年には東京

オリンピック、パラリンピックが開催されるのに伴い、たばこの受動喫煙防止についても、東京都は前知事の時に条例化しないと言っていたが取り組んでいきたいと説明されました。

木下婦人会長は、今年の社員総会に於いて婦人会長に就任され、決意表明と婦人会の活動について発言されました。

また、最後に3月に開催された第67回全国大会(神奈川県)で採択された決議宣言文に要望書を添えて提出しました。

結核罹患率10万対10以下の低まん延国になる目標の2020年まで5年を切り、今年もこの時期がきたと、一同身の引き締まる思いで帰路につきました。🐾



県知事表敬訪問

特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会
会長 瀬川 愛子



8月1日複十字シール運動の開始日、結核予防会岩手県支部を担う予防医学協会武内事務理事他、私ども岩手県地域婦人団体協議会の役員6名で岩手県知事への表敬訪問をし、結核予防を目指す複十字シール運動をPRしました。



県内の結核患者数は150人前後で、「結核は過去の病気ではなく世界で多くの人々を苦しめている感染症であること。早期の受診を心がけていただくようこれからも

呼びかけていきたい」と申し上げ、それに対して知事は「結核を問題視していない人に伝えていくのは重要なことだ」と理解を示してくれました。さらに「運動期間中だ

けでも県から出す封筒に複十字シールを貼っていただけませんか」とお願いしましたところ、秘書の

方から快い返事をいただくことができました。一人でも多くの人に輪が広がる

ことを願いつつ、啓発活動を続けたいと思っています。🐱

千葉県連合婦人会
副会長 子安 祥子



複十字シール運動にさらなる理解と協力をお願いするため、8月5日(金)、ちば県民保健予防財団藤澤武彦理事長、職員と共に、婦人会3名で知事表敬訪問に参りました。対応して頂きましたのは、健康福祉部長古元重和氏、次長川嶋博之氏、疾病対策課長松本正敏氏です。

理事長は、新登録患者、死亡者数等減ってきているが、まだ蔓延国の状態であること、高齢者の新登録患者率は60%弱と高いこと、今後車椅子や寝たきりでも健診できる装備の必要を訴えられました。

婦人会は、会員はもとよりイベ

ント等で市民への啓発を心がけていることをお話させて頂きました。8月29日、船橋市における結核

集団感染のニュースがありました。過去の病気でない、身近なことと実感いたしました。



静岡県結核予防婦人会
会長 長野 蝶子



平成28年8月1日、複十字シール運動開始に合わせ、県結核予防会理事長、当婦人会副会長そしてシールぼうやとともに、静岡県の吉林章仁副知事を表敬訪問いたしました。

運動の意義や目的、県内および日本と世界の結核の現状についてお話し申し上げ、普及啓発グッズ(シールやぬいぐるみなど)をお渡ししました。県内各自治体からも、結核予防思想について広く一般に普及し、運動にご協力いただけるようお願いいたしました。また、当婦人会の活動、県内における位置づけについてもお話し申し

上げました。特に、最近、日本各地で結核の集団発生が多く見受けられ、本県においてもその事例がありましたので、行政や医療機関と連携し、積極的に啓発していきたい旨をお伝えしました。

吉林副知事は、『まず、県民に正しい知識を持ってもらうことが大切』と理解を示してくださいました。

この訪問が県内の結核予防活動の活性化に繋がることを願い、今後とも、会員一同、一丸となり、努力して参りたいと思います。🐱



鳥取県健康を守る婦人の会
会長 豊島 登志枝



平成28年度複十字シール運動の開始に伴い、鳥取県健康を守る婦人の会代表6名と、鳥取県保健事業団丸瀬理事長は、去る8月10日、鳥取県知事への表敬訪問を行いました。

当日、知事は海外出張のため鳥取県福祉保健部藪田部長が、知事に代わって笑顔で迎えてくださいました。

私たち婦人の会は、毎年複十字シール運動開始の8月に知事表敬訪問をさせて頂いています。平成13年度から街頭募金を県内3カ所において実施し、県民の皆さんに結核予防への関心を高めてもらうために、チラシを配ったり、県内の結核状況等をお知らせして、啓

発活動をしていることを説明いたしました。藪田部長から「啓発活動は重要だと思います。皆さんの活動を応援していますので頑張ってください」と励ましていただきました。

鳥取県では県の食生活改善推進員連絡協議会が、結核予防婦人団体の役割を担っており、食を通じた健康づくりに加え、結核予防の普及啓発や、複十字シール運動をさらに広げていきたいと思っています。



沖縄県結核予防婦人連絡協議会
会長 平良 菊



今年の結核予防週間キャンペーンは9月28日、県庁前広場において開催します。

日差しも和らぎ人通りが最も多くなる午後4時30分、元気の良い保育園児38人が太鼓の音を響かせ、勢いよく“エイサー踊り”で県民にPRしたいと思います。

県との事前打合せや知事表敬訪問に、職場体験の小学生2人が参加。基地問題で連日多忙な知事に代わり、浦崎副知事や新里県議会議長にお会いしました。「結核予防でもこんなにガンバッテいるね」とお言葉をいただきました。

10月後半から企業めぐりと婦人会のシール募金を開始します。市町村会長が2～3年で交替するた



め、募金か寄付なのか表現が違います。あらためて“すこやかに”を配布し、運動の趣旨、募金の使途（内容の質問がある）、運動の意義をしっかりと伝えたいと思います。

今年は、第48回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会が沖縄で行われます。普段は参加できない離島や多くの会員へ情報発信ができるものと期待しています。



平成27年度複十字シール募金結果報告について

平成27年度の複十字シール募金総額は、約2億2,700万円となりました。

募金取扱対象別では、郵送募金が約7,400万円(32.5%)、婦人会関係が約6,400万円(28.4%)、市町村が約5,100万円(22.6%)となりました。婦人会の皆様には、結核予防週間の街頭キャンペーン等でご協力をいただき心から感謝申し上げます。

益金の使途内訳(図参照)は、途上国の結核対策約7,400万円(42.2%)、結核予防の広報や教育資料の作成約6,010万円(34.4%)、全国の結核予防団体の活動費約4,000万円(22.9%)、結核等の調査研究約93万円(0.5%)となりました。

支部別の募金成績は、多い順に、1位 沖縄県支部、2位 静岡県支部、3位 大阪府支部、4位 宮城県支部、5位 秋田県支部となりました。

また、2年連続で増加した支部は、埼玉県支部・愛知県支部・岐阜県支部となりました。

今年の複十字シール運動のポスターとリーフレットは、昨年までの結核の国際協力の路線と異なり、国内の結核対策を取り上げました。結核の無料検診や予防週間の街頭キャンペーンなどで、ご協力いただきました北海道支部・大阪府支部・山口県支部・沖縄県支部(北から順)には感謝申し上げます。ポスターの沖縄県婦人会のシールぼうやの募金箱(写真①)

が話題となっています。

昨年秋に募金媒体のアンケートを実施し好評だったシールぼうやの小型シール(写真②)を作りました。このシールを活用し、若年層への複十字シール運動を展開していきましょう。子ども達がこのシールから、シール運動に興味を持ってくれることを願い……

今年度は、シールぼうやのカットバン・ボールペン・シールちゃんTシャツ(写真③・④)・風船等を活用して全国津々浦々でシール運動を展開していきましょう。まだ、若干在庫がありますので、ご注文をお待ちしております。

写真①



写真②



写真③

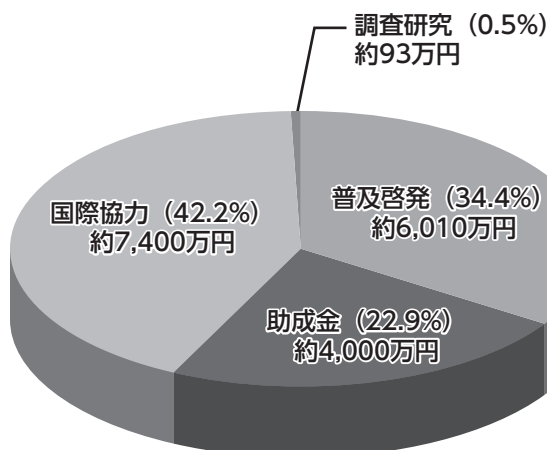


写真④



平成27年度 皆様から寄せられた温かい募金は、 このような目的で使われました

募金総額	226,856,215円
諸経費	52,112,420円
益金	174,743,795円



「第31回国際心理学会議」—健康心理学のシンポジウムに参加して—

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

この7月に横浜で「第31回国際心理学会議」が開催されました。4年に1度開催される国際的な学会です。6日間にわたる会期には、世界の95カ国／地域から8,000人近くが参加し、心理学と関連分野の研究成果が発表され、情報交換がおこなわれました。健康心理学の分野でも、様々な発表があり、その中の招待シンポジウム「心理学と疾病予防」に参加しました。今回は、このシンポジウムについてご紹介します。



シンポジウム 「心理学と疾病予防」

健康心理学では、心と身体の健康と疾病に関する心理的過程について、基礎的・応用的研究がおこなわれています。これに加えて、医療制度や健康政策、企業や組織の健康管理の問題など、研究領域は幅広く、生物学や疫学、公衆衛生学などの医学領域や、教育や行政などの政策的な研究領域とも重なります。例えば、ストレスの発生源とその対処法についての研究や、医療従事者と患者とのコミュニケーションの研究、あるいは、医療機関でインフルエンザのワクチン接種を受けるという行動を促す要因についての研究も、健康心理学に含まれます。

シンポジウム「心理学と疾病予防」は、疾病の予防について、健康心理学の理論がどのように実際の活動へ応用できるのかという

テーマで企画されました。米国からの参加者2名と、日本からの参加者2名が発表しました。

米国で子どもの肥満対策について研究しているマクガイヤー教授は、子どもの食生活を改善して肥満を防止するためには、保護者を対象とする介入が必要であり、また貧困への対策など社会的なアプローチをとることも重要であると論じました。

米国で摂食障害の対策について研究しているロジャーズ教授は、身体の外見についてのイメージにとらわれがちな青少年に、健康な心と身体の大切さを理解してもらうための具体的なプログラムを幾つか紹介しました。

また、批判的思考態度やヘルス・リテラシーについて研究している楠見教授は、健康や疾病について適切に考え行動するために、情報やサービスを調べ、活用する能力であるヘルス・リテラシーに影響を与える要因について論じました。

結核予防対策への 心理学的アプローチ

これらの発表の後、私から「結核予防への心理学的アプローチ」というテーマで発表しました。

発表では、まず結核という病気について簡単に説明し、世界と日本の結核の現状をお伝えしました。20世紀前半に日本で結核が蔓延していたことや、現在でも他の先進国に比べて結核罹患率が高いことを初めて知って、驚かれた方もいらしたようです。

そして、結核予防婦人会が日本の結核予防活動を積極的に進めてきたことについてお話をし、今ま

でおこなってきた調査結果を紹介しました。各地域の婦人会が、1950年代から全国で実施された結核検診を近隣の人々に勧め、結核罹患率の低下に大きく寄与したことは、聴講者にも印象深かったようです。また、現在も、婦人会の皆さまが複十字シール運動をはじめとする様々な活動を通して国内外の結核対策に貢献していること、講習会を通して結核などの疾病の予防や健康づくりについて学び、それを身近な人々から地域へ伝えていく役割を果たしていることなどを、お話ししました。

発表の後、中南米のハイチの研究者から話しかけられました。ハイチでは結核患者が多く、日本の結核予防活動について興味を持たれたようです。ハイチは、現在も結核罹患率が人口10万対200という結核の高負担国です。平成22(2010)年には大きな地震にみまわれ、深刻な被害を受けました。

ハイチといえは、この国で28年間、結核患者の治療に携わった医師で、「ハイチのマザー・テレサ」と呼ばれている須藤昭子さんがいらっしゃいます。平成23(2011)年に、結核予防会の秩父宮妃記念結核予防功労賞(国際協力功労賞)を受賞されました。今は日本に戻られて、ご高齢にもかかわらず、緩和医療のお仕事をされていると伺っております。

このシンポジウムは、全体で200人近い方々が聴講してくださいました。健康心理学の研究に対する関心の深さがうかがえ、うれしく思いました。

人々の健康を地域で支えるために ～ヘルス・コミュニケーション～

結核は、世界の各地で人々を苦しめてきた感染症です。近代以降、医学が進歩し、天然痘は撲滅されました。また、麻疹やおたふく風邪のように、ワクチン接種で予防できる感染症が多くなりました。その一方で、最近でも報道で感染症が頻繁に取り上げられています。例えば、リオデジャネイロ・オリンピックの前に話題になったジカ熱は、近年知られるようになり、国際的に公衆衛生上の問題になっている「新興感染症」のひとつです。その他、マラリア、デング熱や結核は、一時期は減少したものの、再び流行の兆しを見せる地域があり、注目されるようになった「再興感染症」です。このような感染症の予防や治療について更に詳しく知りたいと思う人もいることでしょう。

そのような中で、様々な疾病や健康づくりについて教育を受け、地域の人々とのコミュニケーションに優れている健康ボランティアが注目されています。結核予防婦人会は、結核対策に大きな役割を果たしてきた、地域の健康ボランティアの先駆者といえましょう。婦人会の皆さまが日頃から広く

結核予防婦人会の講習会

- ◆ 結核と生活習慣病についての講義
- ◆ コミュニケーションの力を高める研修
- ◆ 今後の各地域の婦人会活動についての話し合い



調査の結果から、婦人会の講習会は結核に関する知識を向上させることが、明らかになった。講習会は、地域の健康教育にも役立つと考えられる。

学会で紹介した中央講習会についてのスライド（日本語訳）

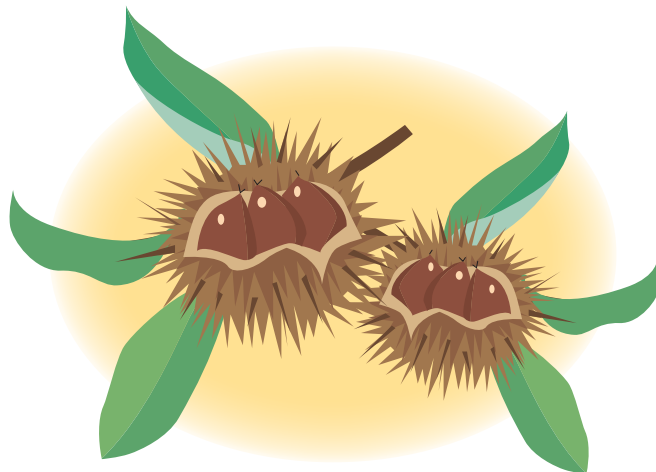
人々の健康のために尽くしてこられたことに、改めて感謝申し上げます。

結核予防会のパンフレット『結核の常識2016』にあるように、近年、日本は結核罹患率が低下していますが、欧米諸国に比べると罹患率が高く、中まん延国に位置しています。そして、高齢の患者の比率が大きいことや、大都市に患者が多く、働き盛りの世代の患者の発見が遅れがちであることなど、幾つもの課題があります。

結核への感染や発病を予防するためには、十分な睡眠とバランスのとれた食事、適度な運動によっ

て免疫力を高めることや、たばこを吸わないことが大切です。これは、結核以外の感染症や生活習慣病への対策にもつながります。また、高齢者は、倦怠感が続いたり、急にやせて弱くなってきたりしたら、結核の可能性もあるので、早めに医療機関を受診することを結核予防会では勧めています。

婦人会の皆さまがこうした大事な知識を周囲の方々へお伝えくださることによって、健康を保ち結核を予防するための知識が人々の間に広まり、結核のない世界に向けた歩みが進んでいくことを願っております。🌸



会長就任ご挨拶

石川県結核予防婦人会
会長 能木場 由紀子



このたび会長に就任いたしました能木場でございます。

県婦人団体の役員として、第10回の中央講習会や平成26年度の東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会に参加し、結核予防の事業などを学ぶ機会をいただき感謝しております。

世界三大感染症のひとつである結核の予防に関する正しい知識と対策を、行政と一体になって推進していくことが重要であると思います。

私たちの活動は、毎年石川県知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動の理解と協力をお願いしております。また、諸団体と共に街頭啓発を通じて我が国から結核をなくすための粘り強い活動を継続しています。

複十字シール運動は結核や肺がんなど、胸の病気をなくすため、100年近く続いている世界共通の募金活動であることを再認識し、開発途上国への支援につながる活動を会員相互に呼びかけ、さらに充実させていきたいと思っております。🐱

愛知県地域婦人団体連絡協議会
会長 村上 千代子



平成28年度より会長に就任いたしました。よろしく願いいたします。

愛知県地域婦人団体連絡協議会として、毎年、複十字シール運動に合わせ、今年度は、8月3日に公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団 山川利治理事長とともに県地婦連役員4名が同行させていただき、堀井奈津子副知事を訪問し複十字シール運動への協力を依頼いたしました。

統計によりますと結核死亡率が愛知県は全国を上回っている現状に心が揺れました。私たち一人ひとは、結核予防を中心とした健康づくりに果たす婦人の役割をよく認識して、健康で明るい生活、社会を実現するための方法や活動について自分自身の問題として考え、少しずつでも生かしていきたいと思っております。

統計によりますと結核死亡率が愛知県は全国を上回っている現状に心が揺れました。私たち一人ひとは、結核予防を中心とした健康づくりに果たす婦人の役割をよく認識して、健康で明るい生活、社会を実現するための方法や活動について自分自身の問題として考え、少しずつでも生かしていきたいと思っております。

結核ってどんな病気から始まり、基礎知識を得ることが大切だと考えています。結核について正しい知識を持つことが予防の第一歩だと思います。よく理解し、かかったら治すことが自分自身や身近な人たちを結核から守ることになり、明るい笑顔の生活に繋がることとなります。

県地婦連は、さらに複十字シール運動の輪を広げてまいります。🐱

山梨県愛育連合会
会長 遠藤 一未



平成28年5月より、山梨県愛育連合会の会長に就任いたしました。責任の重さを痛感しております。

愛育会の仕事は、地域の皆様の健康づくりのお手伝いと、希薄になりつつある人と人の絆を深め、明るい地域づくりをするために、声かけ、見守りをする活動です。先輩諸姉の方々がこの活動を繋げてくださったおかげで、昨年、創立50周年を迎えることができました。今年、会の活性化を図り、この基本となる活動をさらに進めてまいりたいと念じています。

私は、昨年結核予防婦人会の研修会に出席し、結核が日本の重大な感染症だと知りました。それまでは、昭和初期に流行した病気と思っていたのです。そして結核をまん延させないためには、私たちが結核について知ることが大事なこととあらためて思いました。予防と早期発見、早期治療ができるよう、私たちの声かけ活動の中で健診のお勧めを行い、4年後東京オリンピックの年には、結核低まん延国になって、世界のお客様をお迎えしたいと思っております。🐱

私は、昨年結核予防婦人会の研修会に出席し、結核が日本の重大な感染症だと知りました。それまでは、昭和初期に流行した病気と思っていたのです。そして結核をまん延させないためには、私たちが結核について知ることが大事なこととあらためて思いました。予防と早期発見、早期治療ができるよう、私たちの声かけ活動の中で健診のお勧めを行い、4年後東京オリンピックの年には、結核低まん延国になって、世界のお客様をお迎えしたいと思っております。🐱

葛飾協働まちづくり表彰受賞

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子



私たち婦人会は、日頃から明るく住みよい安心安全な地域を目指して、行政と協力し合い、福祉、環境問題等について活動してきました。

結核予防運動や保健センター健康づくり課と共に行った「健康とくらし」に関する活動が地域づくりに貢献したということで、今年3月に「葛飾協働まちづくり表彰」を受賞し、大変喜ばしいことです。

先日、健康フェアに参加し、結核予防、複十字シール運動をPRしてきました。近年、結核患者はいないと思っ

ている人も多くいる中、高齢化社会になり、結核患者に占める高齢者割合が増加傾向にあること、また日本は中蔓延国ですが、少しでも早く低蔓延国に移行できるよう複十字シール運動を続けていきたいとPRしてきました。

今年は「ワンコイン・ワンユニフォーム募金」活動があります。是非一人でも多くの方に趣旨をご理解いただき、

カンボジアをはじめとする開発途上国のヘルスポランティアさんにポロシャツをプレゼントしましょうと呼びかけていきます。🐱



(筆者左から3人目)

ワンコインユニフォームができました！

カンボジアヘルスボランティアさんのユニフォームがついに完成し、地元保健局長を通してヘルスボランティアさんに手渡されました(写真①)。

背面には「結核予防婦人会」の名前も記載されております(写真②)。この活動は、昨年のカンボジアスタディーツアーで現地を視察した婦人会

メンバーがヘルスボランティアさんの活動に深く感銘を受け、カンボジアをはじめとする開発途上国にて結核患者発見や、Dots(服薬支援)を行っているヘルスボランティアさんに共通のユニフォームをプレゼントしようという声掛けから始まりました(ユニフォームを着ることで周囲からも認められや

すく、自分自身もヘルスボランティアであるという誇りや、士気向上にもつながります)。

この活動はこれからも継続し、毎年ユニフォームをお配りしようと考えております。引き続きワンコイン・ワンユニフォーム基金にご協力をお願いいたします。🐱



(写真①)



(写真②背面)



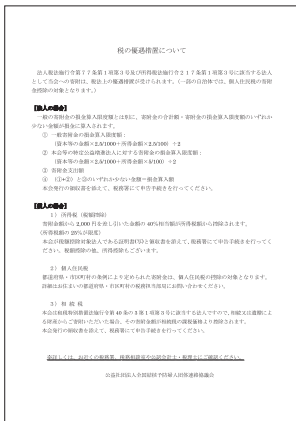
(写真③前面)

税額控除証明書が発行されました

本年8月31日に、内閣総理大臣から当会会長に税額控除証明書が発行されました。

当会への寄附は、法人税法施行令第77条第1項第3号及び所得税法施行令第217条第1項第3号に該当する

法人として税法上の優遇措置が受けられます。当会にご寄附いただける方々に領収書を発行する際には、証明書と税の優遇措置についての説明を一緒にお送りいたします。何卒よろしく願いたします。



イラスト・カット募集

平成29年3月号(健康の輪No.119)に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。縮切は、平成29年1月6日(当会必着)です。



全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061

東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL: 03-3292-9288

編集後記

今年の複十字シール(2016年)をじっくり見てみると、1枚1枚のシールの下の部分に小さな文字で呼びかけの言葉が記されていることに気がつきます。その中の一つに「健康な未来のために」があります。手紙の余白や葉書、封筒、荷物等に複十字シールを貼るときに、届く相手や自分自身はもちろん、すべてのことに健康な未来が実現するように気持ちを込めたいと思います。シールを貼って健康になろう!

(三) 🐱

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの Quality of Lifeの向上が テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)A5X(TB)1201

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 インターネットホームページ <http://www.taisho.co.jp>
◎製品についてのお問い合わせは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30~21:00(土・日・祝日を除く)